プログラム近況報告

2014年度（2013年10月1日～2014年9月30日）

World Vision
この子を救う。未来を救う。

コンゴ民主共和国
トヨタ地域開発プログラム(ZAR-183280)

育てているアヒルの子を抱くフェリジョ君（9歳）

チャイルドストーリー

家禽飼育によって両親の収入が向上し、学校に通えるようになりました

トヨタ地域開発プログラム（以下、ADP）の支援地域で暮らすフェリジョ君は10人兄弟の7番目です。フェリジョ君の両親は、畑でトウモロコシ、キャッサバ、落花生を育て、市場で売って生計を立てていますが、大勢の子どもたちを食べさせ、衣服を与えるだけで精いっぱいでした。このため、子どもたちを学校に通わせるのは後回しになっていました。「就学時期が近づいても私たちにはお金がなく、次の収穫を待たなければなりませんでした。仕方なく、私たちは子どもたちに家で畑仕事の手伝いをさせていました」と 母親のフランシーヌさんは言います。

フェリジョ君の家庭の収入を向上させるため、ADPは家禽飼育についての研修と、アヒル、七面鳥、ニワトリを提供し、両親は養禽ビジネスを始めました。「養禽を始めてから生活が改善しました。育てた家禽を売って、子どもたちを学校に通わせるのに十分なお金を得られるようになりました」とフランシーヌさん。養禽に加えて両親は最近貯蓄グループにも加入し、子どもたちの教育のためのお金を貯めたいと考えています。

小学校３年生のフェリジョ君は、「将来は学校の先生になって、子どもたちに読み書きを教えたい」と明るい笑顔で話してくれました。

両親と３人の弟妹と一緒に。左から３人目がフェリジョ君

公衆衛生・保健プロジェクト

5歳未満の子どもと母親の栄養状態が改善されています

30人の地域保健員が研修を受けました

自治体の協力により30人の地域保健員へ保健活動の研修を行いました。その結果、地域保健員が地域の食材を使った栄養バランスのとれた料理の作り方を母親たちに教えることができ、5歳未満の子どもをもつ母親の栄養への認識や行動に変化が見られるようになりました。また、6カ月未満の乳児に対して完全母乳育児の実施を推奨したり、出産後、次の出産までに一定期間を置くことで母体への負担が減らせることを教えるなど、地域や教会、メディア等の協力にも支えられ、ADPの活動の成果が徐々に地域に浸透してきています。

以前は子どもが病気になっても、家で処置していましたが、子どもの病気について知識を得てからは、保健センターで診察や治療を受けるようになりました

フフ（トウモロコシ粉のペースト）と鶏肉の昼食を食べる子どもたち

保健センターで子どもの診察を受ける母親のドルカスさん

教育プロジェクト

子どもたちが保護者の理解を得て学校に通えるようになってきました

2014年度は、支援地にある小学校3校に全部で12の教室を整備し、必要な机・イスも提供しました。これまで床に座ったり、家からイスを持参して授業を受けていた子どもたちは、学校の設備が整備されたことで、以前より喜んで通学するようになっています。また、これまでは農作物の販売などの家の手伝いを子どもたちが行うことが一般的でしたが、保護者に対する啓発活動の結果、家の手伝いだけでなく教育を受けさせることが親の責務であると理解されるようになりました。これらの取り組みにより、2014年度の授業出席率は92%になりました。

ADPの支援で整備された教室で学ぶ小学生たち

92%の子どもたちが授業に出席しています

農業・生計向上プロジェクト

多様な農作物を生産・販売し、収入を向上させる活動を行っています

特に収益性の高い、市場菜園、キャベツ生産、養鶏の3分野について、実際の農場で農業・畜産活動を行いながら、農業技術の向上を目指す取り組みを強化しました。この取り組みには530世帯が参加し、様々な種類の食料を収穫することができました。各家庭で消費しきれない農作物は販売し、その収入は子どもの学用品や家の修繕、衣服や医療サービス、ほかの種類の食料などの調達にあてることができました。

養鶏を始めてから収入が増え、孤児院の118人の子どもたちの食費と学用品代を賄えるようになりました

ADPの支援で養鶏を始め、孤児院の子どもたちを支援しているジャーティンさん

$530世帯が農業技術向上の取り組みに参加

支援地域の女性のインタビュー

貯金の大切さを学びました

Q.子どもの頃学校に通いましたか。

中学校までは行きましたが、14歳の時に父が亡くなり、学費が払えなくなって退学しました。その後結婚しました。

Q.ADPの活動に参加してどのような変化がありましたか。

2年前から貯蓄グループに参加し、どのように貯金すればいいかを学びました。以前は稼いだお金を貯金するという考え自体がなく、市場で自分の農作物を売っても、現金はすぐ手元からなくなっていました。しかし、貯蓄グループで学んだおかげで、子どもの教育費や家族のために必要な資金を貯金することができるようになりました。

Q.今の夢を教えてください。

以前は大人数で小さい家に住んでいたので、家を大きくしたいというのが夢でしたが、貯金したおかげで家を増築することができ、この夢は叶いました。今は、子どもたちがしっかり勉強し、豊かな人生を歩めるよう願っていま す。

10人の子どもと2人の孫がいる地域の女性、ビビさん（39歳）

ADPマネージャー・インタビュー

Q.どのような仕事をしていますか。

ADPの責任者として、予算に基づいたプロジェクトの企画運営、行政のパートナーとの関係構築、プロジェクトの報告と評価、ADPスタッフの管理などを行っています。

Q.2014年にいちばん困難だったことは何ですか。それをどのように解決しましたか。

井戸を建設する予定だったのですが、必要な資材が不足し、また業者選定に時間がかかり、作業が大幅に遅れました。しかし管理上の問題を一つひとつ解決し、資材の納入業者と交渉した結果、何とか年度内に井戸を完成させることができました。

Q.ワールド・ビジョンで働く原動力となっているものは何ですか。

「すべての子どもに豊かないのちを」という理念の下で、地域の人々とともに地域のために、現場で活動することが私のやりがいです。

トヨタADPマネージャー　ジャン・ルヴラと地域の子どもたち

スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト

支援事業により子どもたちや家族の生活が改善していきます

チャイルドとの手紙の交流や毎年の成長報告などを通して、支援の成果を実感していただくための活動を行っています。このために、チャイルドの成長を定期的にモニタリングし、支援事業がチャイルドとその家族、さらに地域の人々の生活をどのように改善しているのか確認を行いました。また、チャイルドの家族や地域の人々が「子どもを中心とした開発」を理解し、その支援活動の中心を担っていくような啓発活動も行いました。

2014年度は、これまでの活動を評価するとともに、次期5カ年に向けた各活動の計画や予算についての見直しも行いました。

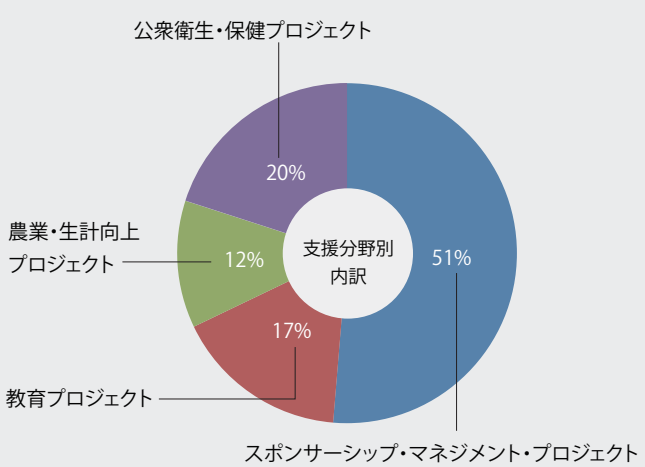
会計報告

ZAR-183280

収支計算書　自 2013年 10月1日　至 2014年9月30日

プログラム支援額(単位:円)	
チャイルド・スポンサーシップ	49,212,315
当期支援額	49,212,315
前期繰越金	-1,344,734
プログラム支援額合計	47,867,581

プログラム支出額	
スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト	24,446,012
教育プロジェクト	7,897,405
農業・生計向上プロジェクト	5,765,674
公衆衛生・保健プロジェクト	9,537,242
プログラム支出額合計	47,646,333
次期繰越額	221,248



2014年度はADPの支援活動の第1段階最終年のため、これまでの活動を評価するとともに、第2段 階に向けた各活動や予算について見直しを行いました

お問い合わせ

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン

電話：03-5334-5351（平日 9:30 ～ 17:00）

FAX：03-5334-5359

ワールド・ビジョン　検索

ホームページ：www.worldvision.jp

e-mail : dservice@worldvision.or.jp

ワールド・ビジョン・ジャパンの活動についての最新情報を掲載してあります。ホームページにぜひお立ち寄りください